



福岡県立宗像高等学校

## 生徒自らが課題をもち、解決に向けて考える学習へ

福岡県立宗像高等学校は、来年度に創立100周年を迎える伝統校です。平成27年度に宗像中学校が併設され、福岡地区唯一の県立中高一貫教育校となりました。

校訓「質実剛健 自彊不息」のもと、「宗高から日本へ、そして世界へ発信 一夢に向かって」を合い言葉に「たくましく、自ら励み、未来を拓く」人材育成を目指して教育活動を行っています。

### 1 平成30年度学校教育目標

「コミュニケーション力と主体性に富み、チャレンジ精神を持って生き抜く宗高生の育成」

#### 【重点目標（具体的目標）】

- 1 自彊不息の学習指導と授業改善
  - (1) 大学入試改革に対応した学習指導の研究と実践に取り組む。
  - (2) 学習指導を通して主体的に思考し、チャレンジ精神を持って行動できる生徒を育成する。
- 2 生徒指導と進路指導の一体的指導
  - (1) 「夢に向かって」<sup>(注)</sup>の効果的な活用により、学習時間のみならず、生活の振り返りによる自己指導力の育成。
  - (2) 学校行事・部活動への主体的な取組を通して、自己の在り方や将来の展望を考える生徒を育成する。

(注) 「夢に向かって」は、毎日の学習記録帳です。生徒は毎日記録をつけ続けることで自ら目標を設定して達成のための見通しをもち、継続的に努力する力を高めています。詳しくは「鍛ほめ福岡メソッド 実践の手引き」（平成30年 福岡県教育委員会）で紹介されています。

### 2 「深い学び」につながるアクティブ・ラーニングの実践

#### (1) 各教科での取組

「アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善」を進めるにあたっては「これからの学びとはどうあるべきか」というテーマで職員研修会や生徒対象の講演会を行って共通理解を図り、授業では、まずは生徒同士が話し合う活動を増やしました。生徒の「深い学び」につながるよう、「問い立て」や評価方法の工夫が常に各教科で行われています。さらに、思考力を問うための考查問題の改善にも取り組んでいます。

- ① 実験・観察のデータ処理や解釈、仮説の設定やレポートの考察をさせる際には、班でのディスカッションを行い、科学的な専門用語を用いて、自分の考えを正しく伝えさせる。
- ② 演示実験においては、実験の目的、内容についての理解を深めるため、図や文章による記録をさせる。
- ③ 問題演習においては論述形式の答案作成に取り組みせ、グループワーク等を利用して対話的に意見を交換し合う機会を設ける。
- ④ 定期考査においては、論述形式の問題を出題し、論理的な考え方が推し進められているかどうかを評価する。

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等の取組」の例

(第1学年 物理基礎 年間学習指導計画から)

## (2) 「総合的な学習の時間」の課題研究

平成 29 年度から、探究的な活動とプロセスを主とした「課題研究」を実施しています。生徒は自ら研究テーマを決め、問いを立て、さまざまな研究手法を用いて自分で検証し、社会や学術の中にある、答えの用意されていない課題に取り組みます。各学年の課題研究の内容は次の通りです。

### ・高校 1 年 **プレ課題探究**

課題探究を行う上での基礎的な技術を学ぶ。また、大学での学問につながる課題を設定したゼミ活動を行い、研究成果についてのポスター発表を行う。

### ・高校 2 年 **課題探究**

志望学部・学科に準じた課題を設定し、探究的に研究し、プレゼン発表を行う。また、個人論文にまとめる。

### ・高校 3 年 **進路探究**

これまでの探究活動の経験をいかし、それぞれの進路実現を目指す。

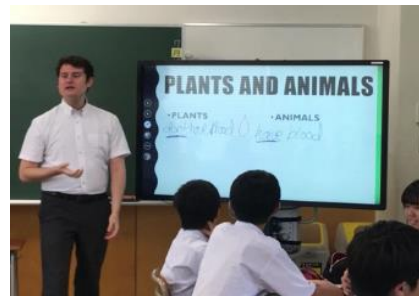
目次	
■課題研究とは何か？ 課題研究のステップ …	2・3
■プレゼンテーション体裁の見本 …	4・5
■論文体裁の見本 …	6
■課題研究を行う際の留意点、課題研究の年間スケジュール …	7
■STEP 1 研究テーマ設定を設定しよう …	8
■STEP 2 リサーチクエストをまとめよう …	9・10
■STEP 3 仮説を立てよう …	11
■STEP 4 研究手法についてまとめよう …	12
■STEP 5 調査・実験結果をまとめよう …	13
■STEP 6 結果をまとめ、考察しよう …	14
■STEP 7 課題研究で得られた内容をプレゼンテーションにまとめよう	
■STEP 8 課題研究で得られた内容を論文にまとめよう …	15

高校 2 年「課題研究の手引き」の目次の一部

内進生（宗像中学校から進学した生徒達）の多くが中学校での「卒業論文」制作の経験を基に班活動でリーダーシップをとっています。本年度は、課題研究の発表会において高校 1 年生の発表に中学 3 年生が参加するなど、中高一貫校の特色を生かした取組を計画しています。

## (3) 教科横断型授業 —英語イマージョン教育—

本年度、県の「グローバル人材育成強化校」に指定され、中高で英語イマージョン教育の推進に取り組んでいます。英語以外の授業についてティームティーチングを行い、生徒が母語で獲得した教科科目の知識・技能を活用して、新しい内容について英語で理解・表現をします。



中学 2 年 理科の授業でのイマージョン教育

(植物と動物の違いについて調べたことを英語で発表したり、説明を聞いたりしている)

## 3 研究授業での「アクティブ・ラーニング」の広がり

年間 2 回実施している研究授業では、年々「課題発見・解決型」の授業が増え、授業改善が着実に進んでいる様子が見えてきます。他教科の授業も参観することでアクティブ・ラーニングの手法や新たな指導法が積極的に共有され、教員同士が楽しみながら学び合い、授業のグレードアップにつながっています。

## 4 成果と今後の方向性

アクティブ・ラーニングの目的や意義が生徒にしっかりと伝わっていることで、生徒自身が自分の成長を実感しながら主体的に授業や課題研究に取り組んでいます。今後は取組を地域や保護者に積極的に発信し、学校のさらなる活性化につなげていきます。